TS（トータル・サティスファクション）を目指して㉞

「まあ、とりあえず」からワールドカップへ

校長室担当より

山下良美さん。すでにＪリーグでも活躍されておられますので、サッカーファンなら御存知の方は多いと思います。日本が世界の注目を集めた、ワールドカップカタール大会に史上初めて女性審判員が主審候補として３名の女性が選出されており、その一人が山下さんです。４歳からサッカーを始めた山下さんはいつのまにかサッカーのとりことなり、長年サッカーを続けてこられました。大学を卒業する際に、サッカー部の先輩に審判員の世界へ半ば強制的に誘われ、特に断る理由も思いつかなかった山下さんは、「まあ、とりあえずやってみよう、仕方ない。」という気持ちで初めて審判をされたそうです。それからは、審判という立場であれ、サッカーの試合に関わるという喜びと、次はこれをできるようになりたいという向上心からこの世界にのめり込み、今に至っているそうです。その時のことを思い返して、山下さんは次のように語っておられます。

「あの時『とりあえず』やってみなかったら、今の私はどうなっていたのか、全く想像ができません。興味がなかったこと、むしろ、マイナスのイメージがあり、やりたくなかったことですが、『とりあえずやってみた』ことで私の人生は大きく変わりました。」

初めてやることに向き合う時、それには前例がありませんから何もかも手探りで迷うことも多いですよね。「これでいいのだろうか。」「この決断で大丈夫だろうか。」という不安が生まれるのも当然です。私たちは物事を判断する際に、「今まではこうだった。」とか「前回はこれでうまくいった。」とか、自分の持っている経験に基づいた基準しか材料がありません。そんな時「分からないからやめておこう」と思うか、「分からないけどとりあえずやってみよう」と決断するかでその後の人生は大きく変わることも意外に多いのではないかと考えています。どの時代においても成功者といわれる人たちは、頭が良いから成功したわけではなく、とにかく新しいことに挑戦していたと言えます。それに、多くの人は先に目的を定めてから進めようとしますが、目的を定めることは実は難しいことですし、それに時間を要してしまって結局何もできないままで終

わることも多いと私は感じています。代わりに、自分にできることであれば、「とりあえずやってみよう！」と挑戦する。そして自分がもっとやってみたいと感じ続けられるように工夫を重ねる。実はこれが、成功への一番の近道なのではないかとこのお話を聞いて私も強く感じました。

　様々な境遇に置かれた時に、「苦労に耐えて、努力するべきだ。」という思いで向き合うことが、日本人には美徳と映ることが多いようです。ところが、前にもお伝えしたとおり、現代の成功者が書かれた書籍の中で用いられるのは、「努力」「根性」といった忍耐を表す言葉より、「幸運にも」とか「思いがけず」といった偶然性を示す言葉の方が多いということがデータで示されています。こういったことから考えても、思いがけず自分が置かれた状況に対して「これも縁。とりあえずやってみよう。」「何かここにも新たな自分の可能性があるんじゃないか。」と自分の中にある「大いなる存在」を信じて、素直に進んでいくことは、苦労もあるかもしれませんがそれ以上に刺激に満ちていて、その分だけ人生は豊かになる、もっと言うと「運をつかむ」可能性が高いのだと感じます。私も含めてですが、子どもたちにもそんな大人としての姿を見せたいものです。良い学校をつくりましょう、一緒に。（令和５年５月１９日）